

事務事業名	専門交通指導員活動事業		所属部局	市民部		単位番号	4011		
			所属課室	みんなでまちづくり推進課		課長名	野澤 淨		
	☒ 実施計画事業		所属担当	交通安全・防犯		担当者名	青沼博文		
基本政策	基本計画	I 情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	
政策	06	安全な環境づくり	事業区分	01	一般	02	01	11	
施策	10	交通安全対策の強化							
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度)			法令根拠	南アルプス市専門交通指導員設置要綱				
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 園児・児童・生徒の朝の登校時に通行危険箇所において街頭指導を行い、日中は保育所・小学校等を訪問し交通安全教室を開催し、交通事故防止に努める。			事業費の主な内訳 (22年度)					
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)		
				臨時職員賃金	5,008				
								計 5,008	

1 現状把握 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績	登校時の街頭指導(毎4日)・交通安全教室(年間208回)
	23年度活動予定	登校時の街頭指導(毎4日)・交通安全教室(年間240回)
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	市民・園児・児童・生徒・高齢者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	通園・通学・通勤時に交通事故にあわないよう指導する。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	交通指導によって交通事故の発生を防止し、事故を未然に防ぐための安全対策を強化する	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	街頭指導日数	日
イ	交通安全教室開催回数	回
ウ	専門交通指導員数	人
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	人口	人
イ		
ウ		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	交通安全教室参加者数	人
イ	通園・通学・通勤時の事故件数	件
ウ		
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
ア	交通事故発生件数	件
イ		

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	5,288	5,347	5,290	5,272	5,272	
		事業費計 (A)	千円	5,288	5,347	5,290	5,272	5,272	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	480	480	480	480	480	
		人件費計 (B)	千円	2,141	2,141	1,902	1,902	1,902	0
		(A)+(B)	千円	7,429	7,488	7,192	7,174	7,174	0
活動指標	ア	日		245.0	245.0	245.0	245.0	245.0	
	イ	回		253.0	236.0	245.0	245.0	245.0	
	ウ	人		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
対象指標	ア	人		72,869.0	72,984.0	72,854.0	72,854.0	72,854.0	
	イ								
	ウ								
成果指標	ア	人		19,376.0	15,700.0	20,000.0	20,000.0	20,000.0	
	イ	件							
	ウ								
上位成果指標	ア	件		403.0	385.0				
	イ								

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	合併前より旧町村に専門交通指導員が設置されており、平成15年4月に南アルプス市専門交通指導員設置要綱が定められ現在に至る
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	専門交通指導員は現在4名というわずかな人員の中で日々実施する街頭指導並び交通安全教室の開催によって、歩行者が交通事故から自己の守るための学習が定着しつつある
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	保育所・小学校等より交通安全に対する学習が楽しく学べ、街頭指導を実施していただくことで事故を未然に防ぐことができているとの反響がある

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒ [内容↓] ☒ 取り組みしていない ⇒ [理由↓]
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	今後も継続して交通安全に取組む
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	現状の活動を今後も実施

事務事業名	専門交通指導員活動事業	所属部	市民部	所属課	みんなでまちづくり推進課
-------	-------------	-----	-----	-----	--------------

2 評価 (Check1) 担当者による事後評価 (複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない (見直し余地がある) ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由↓] 市民を交通事故から守るための活動であり、安全な環境づくりに結びつく
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由↓] 市内の保育所・小学校・高齢者等、交通事故を未然に防止する上での事業であり、対象者が市民全体にわたるため妥当と考える
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由↓] 市内の歩行者並びに二輪自転車走行者を対象に交通安全に対する知識の習得と安全に対する対策を強化ことが主であり妥当と考える。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由↓] 現在4名というわずかな人員の中で日々実施する街頭指導並び交通安全教室の開催を行っており、現状以上の活動実績を上げることは難しい
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒ (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒ [理由と具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒ [理由↓] ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒ [理由と影響の内容↓] 市内の保育所・小学校・高齢者等、交通事故を未然に防止する上での地道な活動を廃止した場合、交通安全に対する市民の考え方が低下する ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒ [理由↓] 南アルプス市専門交通指導員設置要綱に定めるとおり必要
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費 (コスト) を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 事業費は臨時職員の賃金 (日給) が主であり、今後、要綱に定められている定員6名まで雇用した場合は、更に2名分の増加も見込まれる
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？ (事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由↓] 事業費は臨時職員の賃金が主であり、今後、要綱に定める定員6名まで雇用した場合は、更に2名分の増加も見込まれる。なお、専門交通指導員の主な活動は、午前7時30分から午前8時30分までの街頭指導並び保育園児・小学生・中学生・高齢者を対象とする「交通安全教室」の業務時間内開催であり、市正規職員が対応するのであれば職員の大幅な増加が必要。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由・具体案↓] ⇒ 3評価 (Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由↓] 市内の保育所・小学校・高齢者等、交通事故を未然に防止する上での事業であり、対象者が市民全体にわたるため妥当と考える

3 評価 (Check2) 担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括 (事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	現状では、4名の専門交通指導員が雇用時間内を有効に活用しており、さらに、成果を求めるには更なる増員が見込まれる。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性 (Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携 (有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善 (公平性⑨の結果) ☐ 休止 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上 (有効性④の結果) ☒ 現状維持 (全評価項目で適切) ☐ 必要性検討 (目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減 (効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果水準</td><td>向上</td><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><td>維持</td><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果	⑦																					
②																								
③		コスト削減優先度評価結果	①																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																								
①																								
②																								
③																								